

2013.02.11-1

どんがめ3人が行く日奈久



2013/02/11

種田山頭火の像の前で



木造3階建ての老舗旅館金波楼



日奈久 金波楼

金波楼

KIN

PA

ROU

国登録有形文化財

Government-designated tangible cultural asset

登録日：平成21年4月28日

金波楼本館は、明治42年（1909年）に建てられた県内最大級の木造3階建て建造物で、屋根は寄棟・切妻様式を複雑に組み合わせ、各階に^{ひさし}庇を付け、大きな窓とガラス戸で開放的で美しい外観をなしています。

大広間棟（木造二階建て）は、昭和13年（1938年）に建てられ、二階の八十畳の大広間は竹を精巧に編み込んだ船底天井や自然木の銘木を用いた^{らんま}欄間や床の間が風情を感じさせます。

欄間を設けた切妻造の「正門」と、上部を^{つちかべ}土壁、下部を^{いたばり}板張にした長い「^{へい}塀」とともに、日奈久温泉街の伝統的景観を代表しています。



長塙 Long wall



中庭 Courtyard

金波楼

KIN PA ROU

国登録有形文化財

Government-designated tangible cultural asset

登録日：平成21年4月28日

金波楼本館は、明治42年(1909年)に建てられた県内最大級の木造3階建て建造物で、屋根は高棟・切妻様式を複雑に組み合わせ、各階に庇を付け、大きな窓とガラス戸で開放的で美しい外観をなしています。

大広間棟(木造二階建て)は、昭和13年(1938年)に建てられ、二階の八十畳の大広間は竹を精巧に組み込んだ船底天井や自然木の銘木を用いた欄間や床の間が風情を感じさせます。

欄間を設けた切妻造の「正門」と、上部を土壁、下部を板張にした長い「廊」とともに、日奈久温泉街の伝統的景観を代表しています。

Kinparou, built in 1909 and one of the largest three-story wooden structures in Kumamoto Prefecture, is a registered as a national tangible cultural property. An appearance adopting a traditional construction method with a ramma (openwork screen above the sliding partitions) and tokonoma (alcove) in the large hall using natural wood creates an attractive atmosphere.

건파루는 1909년에 건립된 현대 최대급 목조 3층 건물로, 국가 유형문화재에 등록되어 있습니다. 전통공법을 이용한 외관과 자연석을 사용한 큰 돌의 단간 그리고 모로노마(계실 정면에 설치하여 미술품을 장식하는 중요한 장소)가 분위기를 느끼게 해주는 건물입니다.

金波楼建于1909年，是县内最大规模の木造3层楼建筑，作为国家有形文化财产被登录，采用传统工艺法的外观以及使用自然木材制成的大门厅的檐窗，整个建筑物充满着迷人的古色风情。



階段 Stairs



内本間 Residential entrance hall



大広間 Grand hall



床の間 Alcove



欄間 Ramma



付書院 Reading partition

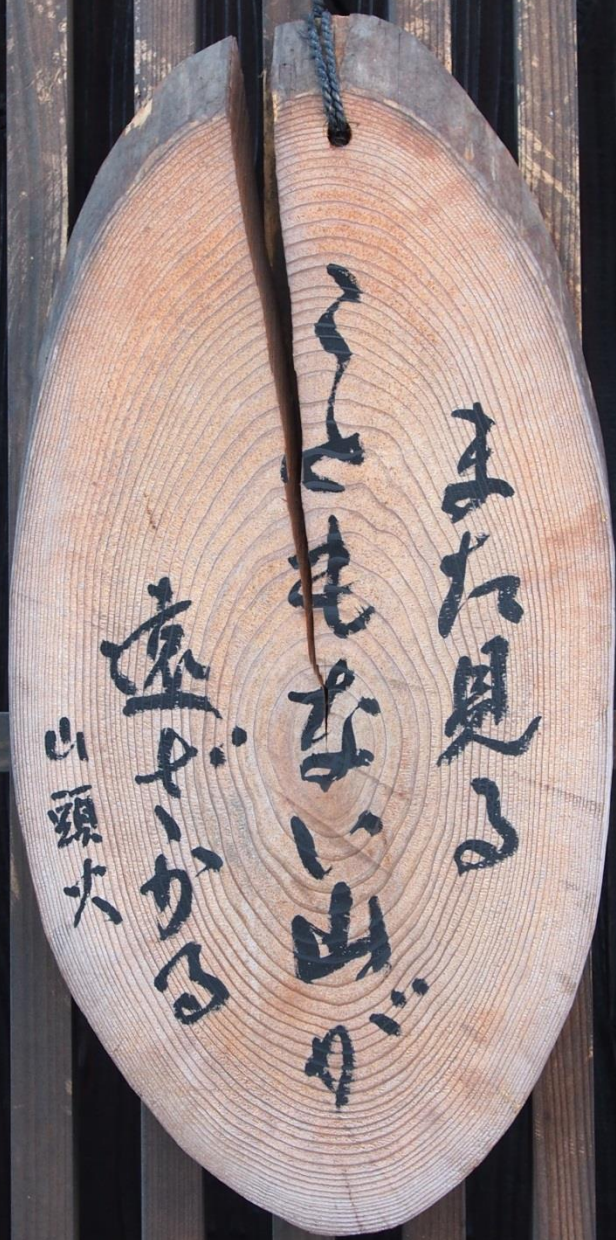


客室 Guest room



2013/02/11
八代市日奈久
金波楼裏の駐車場





また見る

ふもなしい山

遠くから

山頭火

長心
大觀
書

山
火



どちよ
らも
宿
で
前
は
酒
屋
で
山
火



洗清泉



八代特産
晩白柚
12月頃から2月頃まで







2013/02/11
八代市日奈久
金波楼



この模型は
全国の木造建物の良し所を
集めた作品です



2013/02/11
種田山頭火の像の前で

とうろう カラクリ灯籠説明

この灯籠は、午前8時から午後7時まで、1時間おきに作動するカラクリ灯籠です。時間になりますと上部三方が開き、中の人形がかけ声と三味線の音色に合わせて動きます。

人形は湯の街日奈久に古くから伝承されている「十五夜の綱引」をイメージしたもので旧暦の八月十五日、日奈久温泉街七町内が綱をかついで練り歩き、温泉センター前広場で見学の温泉客も参加して綱を引き合うものです。





入口

この家の裏が山頭火が泊まった木賃宿織屋

御宿おりや

七月は日奈久せの頭

いらしや
まて

御宿
おりや



織屋前で

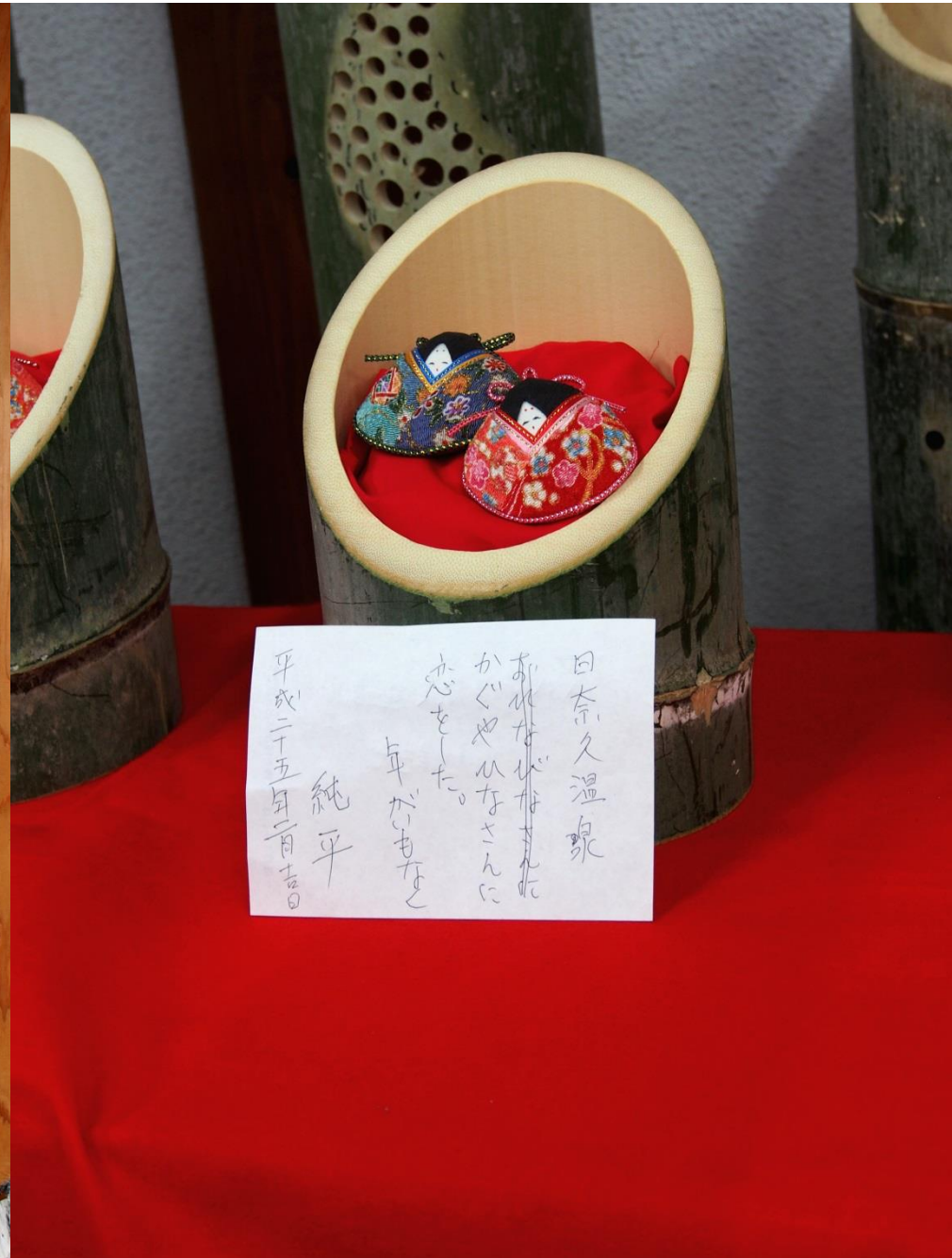
山頭火が泊まった木賃宿織屋

木賃宿 織屋

ここ織屋の建物は、当初さほど遠くない場所^{はたこせ}にあって、旅籠屋だったそうです。大正時代にここへ移築されてから、炊事に用いる薪の分ほどの代金を払えば泊まれるという、いわゆる「木賃宿」となりました。行商人や旅役者、遍路、旅僧など利用客は多かった、と言われています。木賃宿は相部屋が原則。客たちは二階の二部屋に寝泊まりし、泊まり客が多いときは隣のレンガ倉庫も利用されておりました。

放浪の俳人・種田山頭火は、昭和五年九月十日、ここ織屋を訪れ、十二日まで三日間くまろいでおります。行乞日記に、宿銭は一泊につき「四十銭」、宿の印象は「上」、すなわち「中」でも「下」でもない上々の気持ちの宿であったと記しております。

山頭火は諸国を放浪し、方々で木賃宿に泊まりましたが、時を経て現在に至っては、木賃宿の姿はほとんど消えてしまいました。ここ織屋だけは、山頭火が訪れた昭和五年当時の姿そのまま残っていて、今となってはまことに貴重なものでもあります。昔の旅の様子がしのばれるこの建物の中を、じっくりご観覧下さい。



日奈久温泉
お水なひなさんた
かぐやひなさんに
おんごした。
山頭火もたご
純平
平成二十五年二月吉日

田奈久温泉

~~おんなびがさん~~
かぐやひなさんに
恋をした。

年がいな

純平

平成二十五年二月十日

三足の靴の歌記行

カマテシカ

今日もカマテオ
カマテオ

廻りて

(山頭火か理郎歌)

安達先生添削

返歌

今日もまた

バカな理郎に

つき合った

カンヤテツ

2013.

2013.02.11 日奈久金波楼前で



ゆめ 倉庫のかぐやひな





ゆめ倉庫のかぐやひな



2013/02/11
八代市日奈久ゆめ倉庫





あしたは
あまの
あまの
あまの
山麓

山
春
夏
秋

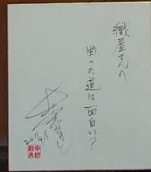
山あれば山を觀る

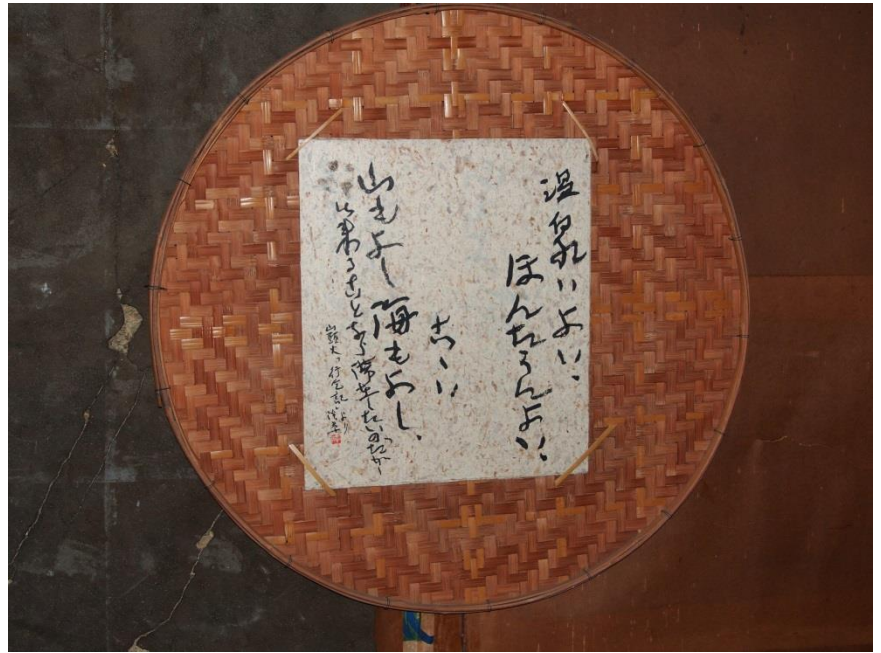
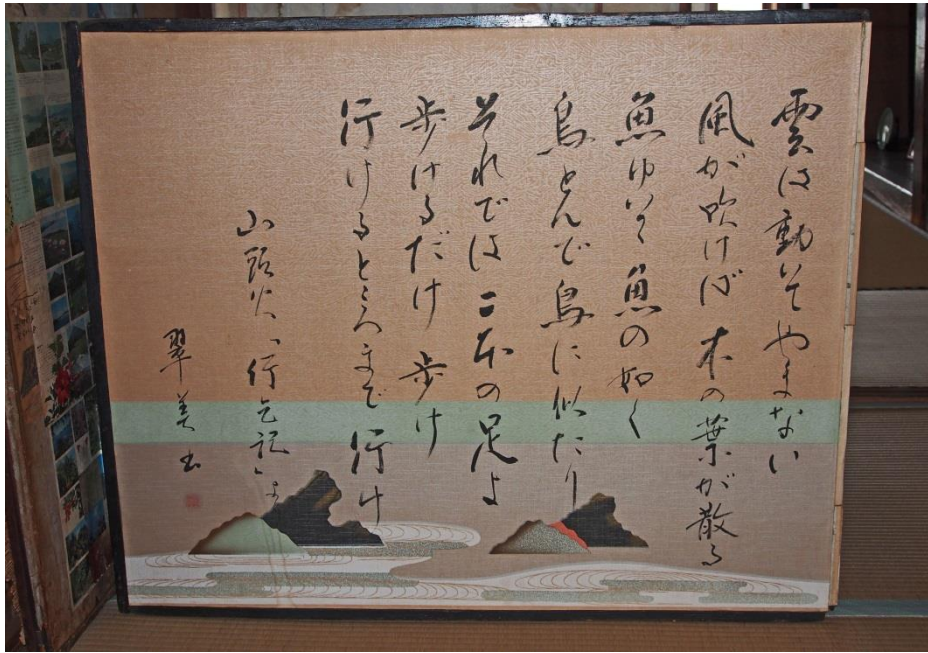
雨の日は
雨の日は

昭和十四年九月二十日
依

秋風也
紙屋の土間に丸い子桶
此處









AP 763年のかいれつ中か 山頭火 Kozaki Kan 潤



五月五日



織屋へようこそ

八代寺町 三丁目

則 彦 三子

佳代子

南郡

則 彦 美智子

福岡市西区

合志 徹夫 他と名

百百合と

賛美歌にまつられて

一年祭妙



なまこ壁の村津家住宅



ゆくり
萩がこぼれる
山頭火

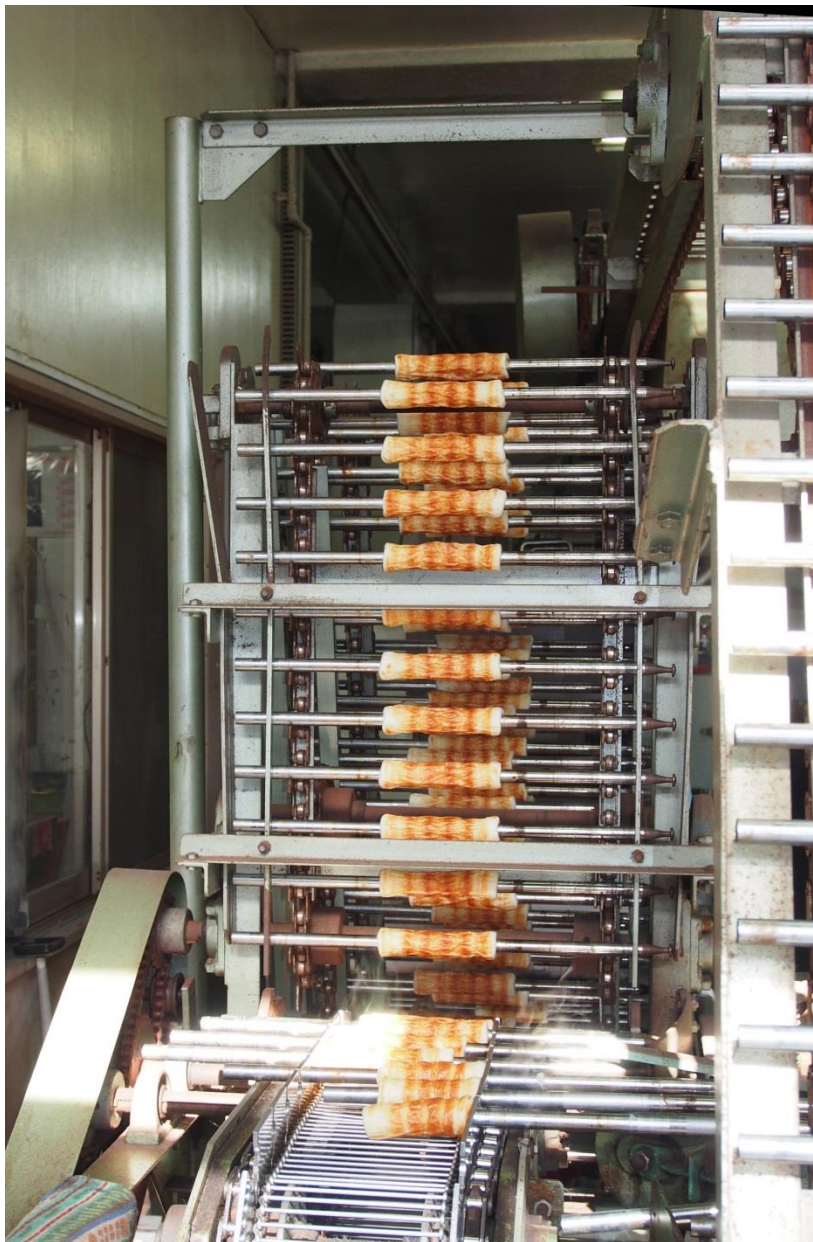
ほろろ
萩がこぼれる

摩訶般若波羅蜜多心経
山頭火



片山蒲鉾店

ちくわ製造機



片山蒲鉾店

八代うまかもん 認定証書

下記の商品を「八代うま
かもん」として認定します

認定No 13

店舗名 片山蒲鉾店

日奈久開湯600年
片山の日奈久ちくわ

商品名 六郎さん

平成20年3月24日

やっちらろ・うまか鑑定団

代表 土山憲幸



片山蒲鉾店